

- (6) (3)に同じ
 (7) (5)に同じ
 (8) 窪田勝利編『大分の鉄道』(OAK 昭和五十五年)
 (9) 『日本国勢図会』(国勢社 平成元年)
 (10) (3)に同じ



表紙解説

鏝絵は、今から百五十年程前に、伊豆の左官入江長八(伊豆の長八ともいう。)が始めたと言われ、それが全国に広まって江戸末期から明治中期にかけて盛んに作られている。

農家の母屋や土蔵、馬屋などに多く見られる家の繁栄、家族や家畜の安全、豊作を願ったものという。

左官仕事のかたわら土壁に鏝で絵を描き漆喰に紅殻べいごなど各種の顔料を混ぜて彩色しており、鏝で描いたとは思えない見事な作品も残っている。

風雨にさらされる土壁は、傷みが早く鏝絵の損潰が著しいのが惜しまれる。

写真の鏝絵は、佐伯市大越(武田仁氏宅)で写したもので家の人の話では、作者は不明であるが百年以上前のものとのことである。

写真並びに解説 吉田齊次郎